

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 武内美佳

所属: 和歌山県立みくまの支援学校

記録日: 平成28年2月11日

キーワード: 重度重複障害 実態把握 意思の表出 観察 飲み物

【対象児の情報】

○学年 高等部2年 女子

○障害名 重度重複障害 低酸素脳症 知的障害

○障害と困難の内容

給食時、『次の一口が欲しい』というように右手で机を叩き要求を示すことがあるが、給食以外の場面では要求・拒否の意思をくみ取ることが難しい。休憩時間、横になって教師に背中を向けた状態でくすぐり遊びをしている時、教師の手が止まると、続けて欲しくて頭と視線を動かし教師の方を見たり、喃語のような声を出したりする。また、右手で教師を叩くように触り、“仕返し(くすぐり)”を狙っていることもある。しかし、他の反応と似ていることもあり意思のくみ取りにくさがある。

定位・探索	◎ 聴覚刺激への反応が大きい。追視・音のする方へ頭を動かす。
好悪・快不快	◎ 笑顔や怒りなど、表情の違い。また目をつぶって外界をシャットアウトすることもある。
要求・拒否	△ 右手で机を叩く
注意喚起	△ 頭や視線を動かしたり、喃語のような発声が見られたりする。 隣にいる人を呼ぶように右手を動かし触ることがある。
有意語	—

◎再現性あり、客観的な説明が可能 ○主観的にはOK、実態の共通には課題 △芽生え、不安定 —できない ?わからない

【活動目的】

○当初のねらい 意思の表出を分かりやすくする ～“受け入れ”か“拒否もしくは不快”か～
“伝えたい”気持ちを高める

○実施期間 平成27年4月～12月

○実施者 武内美佳

○実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化・報告者の気づきとエビデンス】

○対象児の事前の状況

対象児の様子	教師のとらえ
右手で車椅子の机を叩き何かを伝えようとしている。	「Yes」か「No」を問う場面に動かすことが多く、右手を動かすときは「Yes」を伝えようとしていると共通理解している。
「No」を伝える表出がはっきりしない。	目をつぶって拒否をしていると思われるが、眠いだけかもしれない。流れている音楽をゆったり聞きたくて目を閉じているだけかもしれない。
喃語のような発声が見られる。声の高さで訴える内容を表現していると思われる。	声が小さく気付いてもらえなかったり、くみ取ってもらえなかったりする。

○活動の具体的内容



意思の表出を分かりやすくするための内容 【カメラ】

『飲み物を使用し、【飲む】か【いらぬ】かの表出を引き出す。』（カメラアプリで動画記録を撮る。）

- ①飲み物の名称を伝えながら、匂いを嗅がせ、反応を確認する。
- ②一口飲ませた時の反応を確認する。
- ③再度匂いを嗅がせて、反応を待つ。 → 【飲む】か【いらぬ】か
- ④2口目を飲んだ時の反応を待つ。 → 【飲む】か【いらぬ】か



“伝えたい”気持ちを高めるための内容 【vocaco】

『対象生徒の好きな【くすぐり】で、《もっと》という気持ちを引き出し、“伝えたい”気持ちを高める。』

- ①「くすぐるよ」と声をかけながらくすぐる。
- ②教師がアプリ【vocaco】で「先生 くすぐって」と音声を流した後、「は〜い」と言いながらくすぐる。
- ③教師が生徒の手を操作し、iPadの位置を確認しながら、一緒に音声を流す。そして、「は〜い」と言いながらくすぐる。
- ④生徒の反応を待つ。 アプリの音声を流す → くすぐる。 ⑤へ
 iPadに触れない&視線や頭を動かす }
 iPadに触れない&喃語のような発声 } 他のアプリを提示。 ⑥へ
 iPadに触れない&目をつぶる }
- ⑤音声を流してもくすぐってもらえない場面を設定し、様子を観察する。（音声が流れる毎にはせず、生徒が嫌にならない程度で行う。）
- ⑥積極的にiPadに触れたり、笑顔が見られたりするアプリがあると、そのアプリでしばらく遊ぶ。いくつかアプリを提示しても反応が乏しければ、活動の中止を確認し、様子を観察する。

○報告者の気づきとエビデンス

	主観的気づき	気づきに対するエビデンス
意思の表出を分かりやすくする	<p>怒った表情で右腕を動かし、鼻から口を覆うような動きが現れた。</p> 	<p>右手を下ろし、反応がなくなってからつる首ボトルを再度近づけると、口を開けずに同様な反応がみられる。</p>
	<p>ある程度匂いで飲み物の違いが分かっていると思われる。</p>	<p>飲み慣れている飲み物では、匂いを嗅いだ後に口を開けて待っているものと、口を開けないものに分かれた。飲み慣れていない飲み物は、匂いを嗅いだ後、口を開けるときと開けなときがあり、反応がはっきりしない。</p>
	<p>唇に刺激（つる首ボトルの先で触れられる）があると口を開けてしまう。</p>	<p>拒否の反応があった後でも、唇を刺激されると口を開けた。てんかん発作を抑える薬を飲むために、どんなに拒否をしても飲まなければいけない経験を積んできたことから、唇への刺激は反射的に口を開けてしまうと思われる。</p>
“伝えたい”気持ちを高める	<p>好きな「くすぐり」と言っても、いつでもやりたいわけではなく、姿勢によってやりたいことは異なる。</p>	<p>立位姿勢では反応が乏しかったが、車椅子座位で取り組むときには右手を積極的に動かしたり、右手を教師の方に伸ばしてきたりする反応が見られた。</p>
	<p>笑いながらも右腕をあげることがあったが、反射的に動いていると思われる。</p> 	<p>くすぐっている時だけでなく、耳元で話しかけるなど、対象生徒が好きな活動で楽しい気持ちが高まっている時に同様の動きが見られる。右腕を下ろした後、アプリ音声を流すために積極的に右手を動かしているところから、拒否とは異なる。</p>
共通して	<p>机を叩くように右手を動かすのは「Yes」だけではないと思われる。</p>	<p>右手の動きを「Yes」と仮定してつる首ボトルを近づけても口を開けなかった。また、くすぐりなどの遊びの活動に入ると、低い発声や怒った表情、拒否の反応が見られた。</p>

対象児の事後の変化

対象児の様子	教師のとらえ
右手で車椅子の机を叩き何かを伝えようとしている。笑顔・笑顔まではいかない明るい表情・口を尖らせる・唇を噛む・教師をにらむような表情など様々な表情と一緒に右手を動かすようになった。	「Yes」か「No」を問う場面に動かすことが多く、右手を動かすときは「Yes」を伝えようとしていると共通理解している。「Yes」だけでなく、いろいろな気持ちを伝えようとしている。
「No」を伝える表出がはっきりしない。怒った表情で右腕を動かし、鼻から口を覆うようにし、つる首が近づくのをガードするようになった。	目をつぶって拒否をしていると思われるが、眠いだけかもしれない。流れている音楽をゆったり聞きたくて目を閉じているだけかもしれない。拒否を表していると思われる。
喃語のような発声が見られる。声の高さで訴える内容を表現していると思われる。声が大きくなった。	声小さく気付いてもらえなかったり、くみ取ってもらえなかったりする。“伝えたい”気持ちが高まったと考えられる。

※ 対象児の事前の様子を取り消し線で消し、変化について加筆。

○その他のエピソード

・拒否の表出である、右腕を顔の高さまで上げる動きは、昨年度まではほぼ見られなかった動きである。また、喃語のような発声も以前に比べて大きくなり、声を出す場面も増えてきている。視線の動きも活発になり、知的普通学級の生徒からも対象児が「たくさん笑ようになった」や「怖いわ〜」（にらむような表情）、「隣にいるとよく叩かれる〜」という発言があった。対象児の「伝えたい」という気持ちが高まったからだと思われる。

○実践を通して

“伝えたい”気持ちを高めるための活動の中で iPad を使用した理由は、昨年度の実践で iPad から音声を発することで教師が反応することに気付いている様子が見られたからである。また、小さいながらも喃語のような発声も同時に見られることがあるので、発声を引き出すきっかけになればいいと考えた。これまでを振り返って、実践の中（1コマの授業内で）の前半部分は iPad を使って音声を発していても、教師が反応しなかったり、反応が遅かったりすると声を発することが多かった。また、「ごめん！聞こえなかった。」などの声かけを行うと再度声を発するようになった。このことから、“伝えたい”気持ちは高まったが、対象児にとって iPad は呼び鈴的な役割に過ぎなかったのではないかと考える。

全体を通して、右手の動きが「Yes」の表出だけでなく、様々な気持ちを伝えようとしていると捉えなおすこととなったが、“伝えたい”気持ちを高めるための取り組みを通して、対象児の“伝えたい”気持ちが高まったからだと考えられる。また、意思の表出を分かりやすくするための取り組みで、“拒否”の表出ができるようになったことから、【表現したら伝わる】という自信もつき、“伝えたい”気持ちがより高まったからだと考えられる。残り1年の高校生活、実施者以外にも適切に伝わるように、聞き取り手順表を作成し手続きや注意点を共有化したい。